

資料館だより

第41号

平成16年(2004)

9月1日

編集・発行 市立歴史民俗資料館 〒208-0004 東京都武蔵村山市本町5-21-1 TEL 042(560)6620
ホームページアドレス <http://www.city.musashimurayama.tokyo.jp/shiryokan.html>



昭和17年10月に行われた獅子舞の記念写真（長円寺前）〈写真提供：荻野正三氏〉

郷土芸能「よこなかばししまい横中馬獅子舞」

武蔵村山市の郷土芸能の一つに、横中馬獅子舞があります。この獅子舞は、横田・中村・馬場の三地区が協力して行っている伝統行事で、五穀豊穰、無病息災、悪疫退散の祈願を目的に長円寺と七所神社しちしょなど各地区の氏神様に奉納されています。起源は確定できませんが、使われている太鼓の胴に宝暦三年(1752)の銘があることから、江戸時代中頃にはすでに行われていたものと思われる、『指田日記』の中にも獅子舞に関する記述が

毎年のようにみられます。

昭和50年(1975)、保存会が結成されたのをきっかけに「横中馬獅子舞」と呼ばれるようになり、従来秋の行事であった獅子舞は基本的に春に行われるようになりました。翌51年(1976)には市の無形民俗文化財に指定されました。獅子舞の形態は「三匹獅子舞」といい、舞い手が獅子頭を被り、腹に太鼓を付けた一人立ちの獅子が三匹で舞うところからこう呼ばれています。

横中馬獅子舞と子役
～モノクローム写真の思い出～

大野 益代

古いアルバムを整理していたら、私が獅子舞の子役をしていた頃の数枚のモノクロ写真が見つかりました。昭和37年（1962）のカナンボウつき（錫杖をつきながら歩く）の役と、昭和41年（1966）から44年（1969）にかけてササラすりの役を務めた時の写真で、当時身に付けていた衣装の色鮮やかな模様や、地味ながらも趣のある美しい染め色が不思議と目の前に甦ってきます。今回は、当時の思い出を振り返りながら、私が経験した横中馬獅子舞の子役について、その一端を紹介します。



カナンボウつきを務めた時（昭和37年）

当時の獅子舞を演じた人々の構成
（現在もほぼ同じ）

- 獅子 3名〔雄獅子2（タロウ・ジロウ）、雌獅子1（ハナコ）〕
 - 天狗 1名（獅子全体の調子を取る役目なので、獅子舞全てに通じている熟練者）
 - 笛、歌、各々数名
 - ササラすり 8名（小学4・5年生～中学生の女子、かつては4名だった）
 - 棒使い 2名（小学4～6年生の男子）
 - カナンボウつき 2名（小学1年生の女子）
 - 拍子木 1名（小学1年生の女子）
 - *●印は芸能者、○印は子役、と呼んでいる
- このほか行列には次の人々が加わった
- ・万灯2名、提灯2名、ホラ貝1名
 - ・子役の母親たち、三地区の役員等

小学1年生だった当時は獅子舞が何だかわからず、父に連れられるまま中村の熊野神社へ顔合わせに行ったことを覚えています。1年生3人は獅子舞の行列の前方を歩く役で、数回は稽古に行きましたがその様子はほとんど記憶にありません。獅子舞の日の早朝、サンジャク（三尺帯）を持っ

て母と一緒に近所にある中村の指田家（現当主指田弘安氏）へ向かいました。当時の指田家には広い蚕室があり、獅子舞の一行はそこを身支度や休憩に使わせてもらっていました。カナンボウつきの衣装はなかなか可愛いのですが、ササラすりのお姉さんたちが着せてもらっている華やかな桃色の着物が羨ましくて横目でチラチラ見ている間に、支度はどんどん進められました。着付けやお化粧は、基本的に子役の母親たちが行いました。そして、獅子舞の出発地点である長円寺へ向かいました。当時の獅子舞は10月に行われることが多く、その日はちょうど雨上がりで、舗装道路はほとんどなかったので足元の状態は最悪でした。特に横田の七所神社へ通ずる道は、歩くたびにズボズボと足が土の中に入ってしまう有様でした。雨こそ降りませんでしたが、晴れ間の見えない一日で、まだ7歳の誕生日を迎えていなかった私にはとても長く感じられましたが、大人たちに優しく大切にされた日でもありました。

それから4年後、ササラすりの依頼があり、再び獅子舞の子役として参加する機会を得ました。ササラすりとは、右手にササラ（竹の先端を割ったもの）を、左手に溝が掘ってある棒を持ち、ササラでこすって「ジージー」と音を出して伴奏する女子の子役のことです。「ササラっ子」と呼ばれていました。稽古初日は、熊野神社の公会堂で昼に正座して先輩4人のササラの動かし方を見様見真似で覚えていくのですが、笛の奏でる曲の違いや歌詞を理解していくうちに自然と体が動くようになりました。



ササラ

一般的に「ササラ」にはその場を浄めるという意味があり、ササラすりも獅子が舞う場所やその周囲を浄める役割があるそうです。ササラすりデビューの年（昭和41年）は、獅子舞には珍しく良く晴れた日でした。この年は、特別に私の家の庭でも舞ってくれることになっていたもので、親戚を呼んで賑やかな一日でした。祖母の生前の話では、昔は私の家（横田・波多野家）で支度をして

獅子舞が出発していたこともあり、蚕室だった二階の部屋に近所の人たちが集まって見物していたそうです。



ササラすりを務めた時（昭和42年）

ササラすりの支度のため、花笠をかぶる時に使う赤い布で作った小さな座布団と、それを頭にくくり付ける時に使う手拭い、そして肝心なササラと衣装一式を持って指田家に出かけていきました。花笠は4人分なので、初めは先輩4人がかぶり、途中で私たち後輩4人と交替しました。赤い座布団を頭にくくり付けて花笠をかぶり、あごの下で花笠に付いている布をしっかりと結びます。四角い花笠が丸く見えるくらい体を左右に大きく揺さぶる動作があったので、頑丈に付けないと花笠がずれてしまうのです。初めて付ける花笠は、とても重く感じられました。当時の獅子舞は中村の指田家と乙幡家（現当主乙幡博氏）に立ち寄るのが通例になっており、獅子舞一行は各家に到着したらまず庭先で舞い、家の中でご馳走になった後もう一度舞ってから出発していました。翌年からは、長円寺で身支度をする事になり、昼の休憩も熊野神社にある中村の公会堂に変わりました。

私が子役をしていた期間に、通常の獅子舞とは別の日に2回ほど他所で行なわれた行事に参加したことがあります。1回目は昭和38年（1963）の初



「三多摩振興のつどい」のようす（昭和38年）

め頃だったと思いますが、まだ開館間もない八王子市民会館で開催された「三多摩振興のつどい」です。2回目は昭和44年（1969）に立川の旧社会

教育会館で行なわれた郷土芸能大会で、昭島市中神の獅子舞なども一緒に出演していました。

私が獅子舞に出ていた時の一番の思い出といえ、何と言っても天候に恵まれなかったことですが、子供ながらも郷土芸能を守っているという思いがあったように思います。その後も雨にたたられることがあまりにも多かったために開催日が秋から春に変更され、現在は基本的に4月29日に行われています。そして、かつて私たち子役が憧れていた「ササラっ子」の衣装も新調され、着付けの方法も少しずつ変わっていきました。獅子舞の振りも昔に比べて全体的に簡素化され、道路の交通量が多くなるにつれて道中でのササラの伴奏もなくなりました。恐らく、私たちの時代の獅子舞もその昔の人々から見ればかなり簡素化されたものだったことでしょう。



現在の横中馬獅子舞

子供たちの数が減っている現在、子役の確保は大変だと聞いています。また、芸能者の育成の問題もあり、大勢の人数が必要な獅子舞を継承していくのは並大抵のことではないと思います。保存会の方々の御苦労は計り知れませんが、獅子舞の日の朝、遠くから響きわたるあの美しい笛の音色が、これからも武蔵村山の地に受け継がれていくことを「元子役」の一人として願ってやみません。（武蔵村山市立歴史民俗資料館職員）

<参考文献>

- 『村山町史』（村山町史編纂委員会 1968）
- 『武蔵村山市史』民俗編（武蔵村山市史編さん委員会 2000）
- 志水陽子「武蔵村山三匹獅子舞考」（『目白学園女子短期大学研究紀要』第29号 1992）
- 秋山和美「芸能－横中馬獅子舞－」（『武蔵村山市史調査報告書』第7集 武蔵村山の民俗 その3 1998）

付記：末筆ながら、本稿の執筆にあたりお世話になった横中馬獅子舞保存会会長の安部実氏をはじめ、朝倉君子氏、荻野正三氏、乙幡博氏、指田雅子氏、比留間亮介氏に感謝申し上げます。

資料館利用状況（平成15年度）

	開館日数 (日)	利用者数 (人)	市 内		市 外	
			人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
4 月	24	900 (77)	321 (15)	35.7 (19.5)	579 (62)	64.3 (80.5)
5 月	24	1,631 (80)	433 (28)	26.5 (35)	1,198 (52)	73.5 (65)
6 月	18	565 (136)	290 (126)	51.3 (92.6)	275 (10)	48.7 (7.4)
7 月	25	783 (84)	387 (84)	49.4 (100)	396 (0)	50.6 (0)
8 月	26	1,200 (47)	475 (34)	39.6 (72.3)	725 (13)	60.4 (27.7)
9 月	22	865 (113)	277 (0)	32.0 (0)	588 (113)	68.0 (100)
10月	25	1,064 (212)	321 (52)	30.2 (24.5)	743 (160)	69.8 (75.5)
11月	23	884 (190)	452 (178)	51.1 (93.7)	432 (12)	48.9 (6.3)
12月	21	1,020 (85)	253 (31)	24.8 (36.5)	767 (54)	75.2 (63.5)
1 月	22	807 (133)	307 (91)	38.0 (68.4)	500 (42)	62.0 (31.6)
2 月	23	1,195 (186)	561 (176)	46.9 (94.6)	634 (10)	53.1 (5.4)
3 月	24	1,403 (421)	471 (307)	33.6 (71.7)	932 (114)	66.4 (27.1)
合 計	277	12,317 (1,764)	4,548 (1,122)	36.9 (60.7)	7,769 (642)	63.1 (39.3)

※利用者(入館者)には団体を含み、()内は団体の内数

<お詫びと訂正>

◆前号『資料館だより第40号』において過ちがありましたので、お詫びするとともに訂正いたします。

3 頁 4 行 16 行、写真タイトル (誤) 大皇器地神社 (正) 大皇器地祖神社